

島根大学泌尿器科における献腎移植 第1例目の経験

みつ	い	よう	ぞう	あん	じき	はる	き	いの	うえ	けい	た
三	井	要	造	安	食	春	輝	井	上	圭	太
こ	ばら	ち	あき	あり	ち	なお	こ	ひら	おか	たけ	お
小	原	千	明	有	地	直	子	平	岡	毅	郎
す	むら	まさ	ひろ	ほん	だ		さとし	やす	もと	ひろ	あき
洲	村	正	裕	本	田		聡	安	本	博	晃
しい	な	ひろ	あき	い	がわ	みき	お				
椎	名	浩	昭	井	川	幹	夫				

キーワード：献腎移植，末期腎不全，ドナーアクションプログラム

要 旨

2010年11月11日に他県でドナー候補が発生し，島根県内の透析患者がレシピエントとして選定された。レシピエントは60歳男性。慢性糸球体腎炎による末期腎不全腎に対して，2000年に腹膜透析導入を導入，2008年より血液透析に移行した。患者は透析導入当初より腎移植の希望が強く，10年間献腎移植希望の登録を更新し続けた。献腎移植の意思を確認後，当院へ入院となり，医学的に移植可能であることを確認した。12日に当院へ摘出腎が搬送され，21時より腎移植術を開始した。手術時間は4時間で，温阻血時間が18分，総阻血時間が23時間18分であった。腎移植後，血液透析を10回施行し第21病日に透析離脱が可能となった。その後は感染，拒絶反応を経験することなく経過し，第46病日に血清クレアチニン値 2.6 mg/dL の状態で退院した。

緒 言

わが国において，末期腎不全治療として血液浄化療法の飛躍的な進歩が，生存成績の向上に寄与したことは言うまでもない。しかしながら，長期透析療法に伴う様々な合併症，特に心血管系合併症の発現が，透析患者の生活の質（QOL）を低

下させる大きな要因となっている。腎移植は末期腎不全に対する唯一の根治的療法であり，生存率やQOLにおいて血液浄化療法を凌駕し，欧米諸国では透析治療と並ぶ地位を確立しているが，わが国では腎移植，特に献腎移植が極めて少ないのが現状である。

当院は2009年4月に県内唯一の献腎移植認定施設となり，これまで院内体制の整備と移植医療の普及にむけ取り組んできたが，今回当院初（島根県では6年ぶり）となる献腎移植を施行したため

Yozo MITSUI et al.

島根大学医学部附属病院泌尿器科学教室
連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1